

平成8年度
全土連
会長賞受賞

JA 秋田やまもとキャベツ部会 (秋田県能代市) 国営総合農地開発事業 (能代地区)

～生産コスト削減を意識した減農薬・減化学肥料栽培を実施～

◆受賞時の活動

共同育苗・共同出荷によるコスト低減の実現、輪作体系による連作障害防止と地力増進への取り組み、農業機械・施設の共同利用等の活動を行い、キャベツ産地の安定と発展に努めてきました。

◆現在の活動及び受賞後の変化

生産者の高齢化と軽量作物（みょうが、ねぎ）への転換や近年のキャベツ相場の不安定さから、構成員およびキャベツの作付面積が減少しました。脱会した生産者は、大豆などの産地づくり交付金対象作物の栽培に取り組んでいます。

キャベツの栽培面積はかなり縮小されましたが、小さいながらのメリットを生かし、消費者に求められる柔らかい品種へ転換しました。生産コスト削減を意識した減農薬減化学肥料栽培の取組を実施し、収量の安定化を図っています。

営農状況	受賞時 (平成7年)		現在 (平成20年)	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	キャベツ	25.0	キャベツ みょうが ねぎ	4.5 1.0 1.0
構成員数	50戸		14戸	



キャベツの栽培

◆今後の取組について

近隣のJA部会及び同地区内の他部会と積極的に交流を図り、安定した収入を得るため、キャベツだけに依存せず、他作物の導入による複合化を図っていく予定です。

平成9年度
全土連
会長賞受賞

JA つがるにしきた富港長ねぎ部会 (青森県つがる市) 国営農地開発事業 (屏風山地区)

～「氷温ねぎ」で輸入に負けない産地を～

◆受賞時の活動

農地開発事業を契機に長ねぎの栽培に取り組み、輪作体系の確立による連作障害の回避、選別・結束・荷造りまでの一貫した共同選別集出荷体制を確立し、長ねぎの産地形成に取り組んできました。

◆現在の活動及び受賞後の変化

選別・結束・荷造りまでの一貫した共同選別作業は現在も続いてはいるものの、一時期の輸入ねぎによる価格の暴落などにより、作付面積は年々減少しています。平成13年度に導入した氷温施設を利用し、氷温処理により鮮度の保持や旨みが増した長ねぎを「氷温ねぎ」として、販売に取り組んでいます。



長ねぎの栽培



氷温施設

営農状況	受賞時 (平成8年)		現在 (平成20年)	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	長ねぎ	25.0	長ねぎ	23.0
構成員数	42戸		35戸	

◆今後の取組について

労働力の減少による作付面積の減少に歯止めをかけるため、共同選別集出荷体制の強化やねぎの収穫機械の導入に取り組んで行く予定です。

平成11年度
全土連
会長賞受賞

栗ノ木営農組合（青森県五戸町） 国営農地開発事業（五戸台地地区）

～工区内の施設の維持管理を実施～

◆受賞時の活動

造成された農地に対して、マニュアルプレッダーや堆肥盤等の共同利用による積極的な土づくりを行い、既存畑並の収量を確保しました。にんにく、ながいも、ごぼう、ねぎなどを組み入れた輪作体系の確立により、連作障害が回避されるとともに品質の向上を図ってきました。

◆現在の活動及び受賞後の変化

栗ノ木営農組合は、栗ノ木工区内の農地を賃貸借で利用する受益者で設立されましたが、土地利用者の交代により野菜農家の組合員の一部が果樹農家、畜産農家の組合員に交代したため、共同利用者が減少し、現在は、活動規模を縮小し、工区内の施設（堆肥盤、マニュアルプレッダー）の維持管理を行っています。

営農状況	受賞時（平成10年）		現在（平成20年）
	作物名	面積 (ha)	
作付作物	水稻	3.6	※現在は、堆肥盤、マニュアルプレッダーの維持管理を行っています
	ながいも	7.6	
	にんにく	4.0	
	ごぼう	1.2	
構成員数	7戸		12戸

◆今後の取組について

開発農地の有効活用による産地の維持のため、今後とも共同で導入した堆肥盤・マニュアルプレッダーの維持管理を行い、10a当たり3～5tの堆肥を毎年継続して投入していくこととしています。



マニュアルプレッダーによる堆肥散布

平成18年度
全土連
会長賞受賞

中沢土地利用生産組合（岩手県奥州市） 国営農地再編整備事業（いさわ南部地区）

～田植機を集約し、農業機械の共同利用をさらに推進～

◆受賞時の活動

国営農地再編整備事業による大区画は場整備を契機に、集落内農業の担い手組織として生産組合を設立しました。利用集積した集落内農地で、大型機械を導入して水稻直播栽培に取り組み、併せて大豆、飼料作物のブロックローテーションの確立により生産性が大幅に向上しました。平成16年に特定農業団体に認定され、集落内の作業受託に取り組んできました。

◆現在の活動及び受賞後の変化

平成19年に個人で所有していた田植機を処分し、組合で新たに田植機を購入しました。組合所有の農業機械の共同利用を推進し、計画的かつ効率的な利用を行っています。

営農状況	受賞時（平成17年）		現在（平成20年）	
	作物名	面積 (ha)	作物名	面積 (ha)
作付作物	水稻	63.0	水稻	59.8
	水稻（直播）	7.0	水稻（直播）	2.8
	大豆	13.0	大豆	16.2
	飼料作物	9.0	飼料作物	19.2
	ピーマン	0.5	ピーマン	0.5
構成員数	32戸		33戸	

◆今後の取組について

農地を守るための後継者がいないことに不安を感じる農家が8割以上いることから、5年後の法人化に向けて取り組んでいく予定です。



大型コンバインによる収穫作業

編集
後記

「もえび」へのご意見等、お待ちしております。また、「もえび」は東北農政局ホームページでもご覧になれます。<http://www.maff.go.jp/tohoku/nouson/sigenka/moebi/index.html>

表紙は、国営かんがい排水事業馬淵川沿岸地区内で栽培している促成アスパラガスの根株堀取り作業です。堀り取った根株をハウスに伏せ込み栽培し、12月からアスパラガスを出荷します。今年もおいしいアスパラガスができることを期待しています。